

山の中の巨大な井戸が農地を守ってる!?

日南市北郷町の山中に鎮座する巨大な井戸は、みかん園を地すべりから守る県民にとって大切な施設です。

農業用水として（もちろんん生活、工業用水としても）活用される地下水ですが、これは梅雨や台風などの雨量の多い時期には、「地すべりの要因」として、私たちの生活に牙をむくことがあります。

地すべりは、一昨年に広島市で発生したような突発的な土砂崩れとは異なります。

降雨により地下水が上昇することで、地盤が水を多量に含み、その重量が著しく増加し、更に内部では、地盤の滑りに耐える力が減少するため、土砂がじわじわと滑り落ちる現象を言います。

この現象を放置すると、いずれ崩壊の速度は増し、ふもとの住居や山腹の農地を巻き込んだ大災害に発展します。

ですので、地すべりの事前の防止が必要になります。要するに地下水の水量をしっかりと管理すればよい、ということになります。

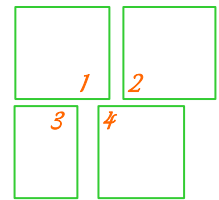
そのため、山の中に作ったものが「集水井」という巨大な井戸です。

集水井内部の側面には、地中に直接通した集水ボーリングが複数本あり、そこから流れ出た地下水が集水井の底に溜まり、効率的に排水される、という仕組みになっています。

農林振興局では、これら地すべり対策施設がしっかりと機能するように、定期的に確認に行き、また施設の清掃なども行っています。

県内には、このような地すべり対策施設がたくさんあります。これらの中には、皆さんの目にもすぐとまるような場所があったりもします。

県民の生活にとって、とても大切な施設です。皆さんの手で大切に見守って欲しいと思います。



- 1: 農村整備課の職員で施設の清掃。奥に見えるフェンスの中に集水井があります。
- 2: フェンスに絡みついたツタや落ち葉を除去して、やっと姿を現した集水井。直径 3.5m、深さ 22m（ビル 6 階分!!）の巨大な井戸です。
- 3: 集水井の内部。奥に見える 11 本のパイプから地下水が流れてきます。中をのぞくと吸い込まれそうな感じになり、背筋が凍ります。
- 4: 集水井付近の果樹園のみかんの樹。皆さんの近所の農園も、こういった地すべり対策施設に守られているかも知れません。

